

Br. Holdings Report



第10期 中間報告書

平成23年4月1日～平成23年9月30日



株式会社 ビーアールホールディングス

証券コード:1726

「人と人」「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、

異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。

そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、資本効率のさらなる向上を目指すのが、ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。

欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する橋のイメージのデザインで統一されています。

株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。

これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。



株主の皆様へ



代表取締役社長
藤田 公康

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、当社第10期の第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年9月30日)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動の概況をとりまとめご報告させていただきます。

当社の第10期上半期の業績は、通常200億円から250億円程度の期首手持工事が、第9期の前半に東日本コンクリート株式会社、後半に極東興和株式会社が国土交通省及び各発注機関より指名停止の処分を受け、当期期首手持工事がほぼ半額の13,293百万円しか確保できず、以前にご報告いたしました様に厳しいスタートとなりました。この影響で、当上半期の完了工事は5,737百万円と昨年度の10,454百万円と比較してほぼ45%減少しており(一昨年度の13,133百万円と比較すると56%減少)、当四半期純損失が681百万円(前年度四半期純損失は55百万円)となりました。その結果、一時的に株主資本が264百万円まで落ち込み、たとえ少額でもこれ以上の株主資本の毀損を避けるため、残念ながら今期中間配当は見送らせていただきました。

また、平成23年3月11日の東日本大震災の復旧関連では、上半期に仙台市の要請により、東日本コンクリート株式会社が数か所でがれき撤去を行っておりますが、下半期からは一部で本格的復興工事となり、ある程度の発注が期待できるところです。また、今年度の台風12号の復旧工事(応急処置)では、国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所の依頼により十津川村の折立橋仮橋設置工事に極東興和株式会社が全面的に協力しており、災害時の応急処置や復旧工事にはグループ全社で取り組んでおります。

下半期の当社の業績ですが、上半期(平成23年9月30日まで)は発注量も昨年と同様に少なく、積極的な努力にもかかわらず受注額が6,585百万円で、1%程度の微増となりました。しかしながら、下半期に入ると当社の受注は順調に推移し、10月末累計で昨年度を25%程度上回る結果となりそうです。また、社団法人プレストレスト・コンクリート建設業協会の発注予測も9月に上方修正され、下半期は対前年比で27%増(対一昨年度比で5.7%増)と明るい見通しとなっております。当社としても今後とも受注に全力で取り組み、早期復配に向けて努力していく所存でありますので、引き続き株主様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成23年11月30日

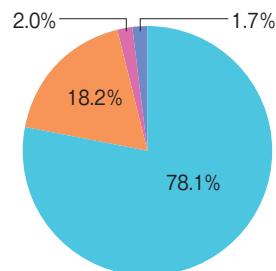
セグメント別の状況

各事業区分の主要な内容

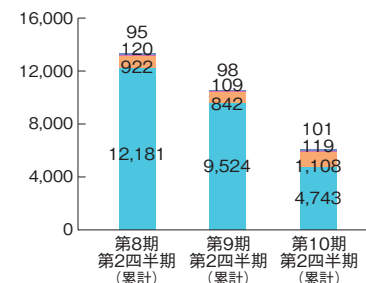
- ① 建設事業／橋梁土木工事の設計・施工
- ② 製品販売事業／コンクリート二次製品の販売
- ③ 情報システム事業／システム開発・販売
- ④ 不動産賃貸事業／当社ビルのマンション賃貸運営等

- 建設事業
- 製品販売事業
- 情報システム事業
- 不動産賃貸事業

売上高構成比



売上高推移 (百万円)



建設事業

売上高 47億43百万円
前年同四半期比 50.2%減



建設事業におきましては、公共事業の削減による受注競争激化等、引き続き厳しい経営環境が続いております。当第2四半期連結累計期間の受注高は48億32百万円(前年同四半期比0.3%増)、売上高は47億43百万円(前年同四半期比50.2%減)、セグメント損失は2億8百万円(前年同四半期はセグメント利益3億40百万円)となりました。

製品販売事業

売上高 11億8百万円
前年同四半期比 31.5%増



製品販売事業におきましても、その対象は建設業界であり依然厳しい状況が続いております。当第2四半期連結累計期間の受注高は15億6百万円(前年同四半期比5.0%増)、売上高は11億8百万円(前年同四半期比31.5%増)、セグメント利益は11百万円(前年同四半期比80.7%減)となりました。

情報システム事業

売上高 1億19百万円
前年同四半期比 9.4%増



当事業の主な事業内容であるシステム販売では、主製品である「建設業総合管理システム」の市場が土木・建設業界であり、また、ソフトウェア開発は、ユーザー企業のIT投資抑制が継続しており、依然として厳しい状況が続いております。当第2四半期連結累計期間の売上高は1億19百万円(前年同四半期比9.4%増)、セグメント利益は6百万円(前年同四半期はセグメント損失12百万円)となりました。

不動産賃貸事業

売上高 1億1百万円
前年同四半期比 3.1%増



当事業は当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は1億1百万円(前年同四半期比3.1%増)、セグメント利益は58百万円(前年同四半期比5.1%増)となりました。

トピックス

Topics 01

徳益高架橋 〈極東興和株式会社〉



本工事は、九州自動車道と有明海沿岸道路を結ぶ一般国道443号三橋瀬高バイパスの橋梁工事で、福岡県柳川市に位置

しています。高架橋区間が4つの工事に分割して発注されましたが、極東興和株式会社としては2工事目の受注となりました。本橋は、PC2径間連続T桁橋(少主桁)で、大分工場にてセグメント桁を製作しています。橋梁直下を市道及び国営クリークが横断しており、海苔の養殖が盛んなこの地域では、特に環境に配慮して施工しました。

平成24年春の供用開始に向けて同一工区内に複数社が競合するなか、業者間で連携を取りながら工程短縮を図り、無事故無災害、2ヶ月の工期短縮で工事を完了し、発注者から高い評価をいただきました。

Topics 03

上関大橋補修工事 〈極東興和株式会社〉

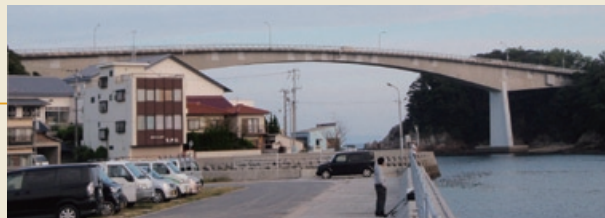
上関大橋は山口県柳井市内の瀬戸内海沿岸部に架かる大規模橋梁で、3径間連続有ヒンジ箱桁橋と呼ばれる構造形式です。本工事は「大容量外ケーブル工法」「炭素繊維シート接着工法」「コンクリート増厚工法」といった、代表的な補修工法を駆使して老朽化した橋梁を補修する工事です。これらの工法のうち「大容量外ケーブル工法」では、当社が蓄積してきたPC橋の設計・施工技術を活かして、発注者、設計会社と一体となり、安全かつ合理的な外ケーブル構造を提案し、施工しました。

Topics 02

築川10号橋 〈東日本コンクリート株式会社〉

築川10号橋は、岩手県盛岡市を洪水から守る「治水」と、上水道を供給する「利水」を目的とする築川ダム建設に伴う代替道路として計画された橋梁です。関連工事のうち、当社グループとしては3号橋に続いて2橋目の工事となりました。本橋は、PC2径間連続Tラーメン箱桁橋で、トラベラー(移動作業車)を使用した張出架設工法にて架設しました。熊鷹など希少動物の生態に配慮が必要な地域であるため、pH中和装置の設置やトラベラーを緑系の色に統一するなどの対策をとりながら作業を進めました。

東日本大震災により資機材の調達が困難となり、若干工事期間の延長となりましたが、平成23年5月に無事故・無災害・高評価にて竣工いたしました。



災害復旧への取り組み

頻発する自然災害に対して被災地の1日も早い復興を願い、当社グループは保有する独自技術を駆使し災害復旧活動に取り組んでいます。

東日本大震災

がれき撤去や橋梁補修へ積極的に参画

本年3月11日に甚大な被害をもたらした東日本大震災の復興活動において、仙台市内に本社を構える東日本コンクリート株式会社は、がれき撤去や橋梁補修工事などの復旧事業へ積極的に参画しています。



仙台市がれき撤去

仙台臨海鉄道災害復旧工事

台風12号の集中豪雨災害

十津川村で24時間体制による仮橋設置工事

本年9月4日に西日本地域を襲った台風12号は、特に紀伊半島を中心に大きな被害をもたらしました。奈良県十津川村に位置する国道168号折立橋は、台風に伴う豪雨の影響で、その一部が落橋。極東興和株式会社は被災地近くで今戸高架橋(表紙参照)の施工を行っていましたが、折立橋復旧にあたり、国土交通省近畿地方整備局奈良国道事務所の要請を受け仮橋設置工事を行いました。24時間体制で施工し、10月30日に無事開通しました。



折立橋仮橋設置工事



社会貢献活動

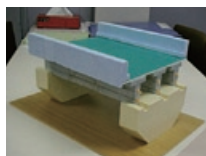
当社グループでは、受注した工事を確実に施工することはもちろん、地域活動や慈善活動などにも熱心に取り組んでいます。今回はさまざまな取り組みのなかから、その一部をご紹介します。

現場見学会やお絵かき大会など地域参加型の企画を実施

現場近隣の学校や地区住民対象の見学会では、日頃なじみのない技術を分かりやすく説明するため、写真や模型を使用するなど工夫を凝らしています。また、舗装前の橋をキャンパスに見立てたお絵かき大会も実施しており、毎回、地域の方々から好評をいただいている企画です。橋名・架橋位置などを表す銘板のデザインを小学生に依頼した際には、一生の思い出になると大変喜ばれました。



見学会の様子



橋の構造模型を使用して説明



お絵かき大会の実施



小学生がデザインした橋名板



橋名板レプリカを小学校に寄贈

地域の環境美化へ清掃や草刈を積極的に推進

自治体の認証を受けた地域清掃活動や、現場周辺の草刈・清掃活動を積極的に行っています。



地域清掃活動



工事現場周辺の草刈作業



広島県のアダプト活動認定証

慈善活動

当社グループでは、子どもの権利保護を目的とした公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの理念に賛同し、スポンサーとして活動支援を行っています。

連結財務諸表のポイント

● 四半期連結貸借対照表のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期末 平成23年9月30日	前期末 平成23年3月31日
流動資産	6,381,513	7,558,210
固定資産	4,323,364	4,440,521
有形固定資産	3,751,049	3,857,143
無形固定資産	81,462	89,990
投資その他の資産	490,852	493,387
資産合計	10,704,878	11,998,731
流動負債	9,504,525	10,060,438
固定負債	954,057	982,239
純資産	246,295	956,054
負債及び純資産合計	10,704,878	11,998,731

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

四半期連結貸借対照表

総資産は107億4千万円となり、前連結会計年度末比12億93百万円の減少となりました。その主な要因は、受取手形・完成工事未収入金等が減少したことによるものであります。有利子負債は4億47百万円減少し、47億18百万円となりました。純資産は、四半期純損失6億81百万円の計上等により、前連結会計年度末比7億9百万円減少の2億46百万円となりました。

● 四半期連結損益計算書のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	前第2四半期累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
売上高	5,737,783	10,454,003
売上原価	5,380,935	9,513,119
売上総利益	356,847	940,883
販売費及び一般管理費	916,243	876,320
営業利益又は営業損失(△)	△559,396	64,562
経常損失(△)	△669,116	△36,309
四半期純損失(△)	△681,929	△55,224

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

(単位:千円)

	当第2四半期累計期間 平成23年4月1日～ 平成23年9月30日	前第2四半期累計期間 平成22年4月1日～ 平成22年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	332,331	1,108,038
投資活動によるキャッシュ・フロー	△82,579	47,209
財務活動によるキャッシュ・フロー	△480,566	△1,301,595
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△230,814	△146,348
現金及び現金同等物の期首残高	1,350,528	1,813,867
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,119,714	1,667,519

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

POINT

四半期連結損益計算書

売上高は57億37百万円(前年同四半期比45.1%減)、営業損失は5億59百万円(前年同四半期は営業利益64百万円)、経常損失は6億69百万円(前年同四半期は経常損失36百万円)、四半期純損失は6億81百万円(前年同四半期は四半期純損失55百万円)となりました。

POINT

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末比2億30百万円減少し、11億19百万円となりました。「営業活動によるキャッシュ・フロー」は3億32百万円の獲得(前年同四半期は11億8百万円の獲得)、「投資活動によるキャッシュ・フロー」は82百万円の使用(前年同四半期は47百万円の獲得)、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は4億80百万円の使用(前年同四半期は13億1百万円の使用)となりました。

会社概要

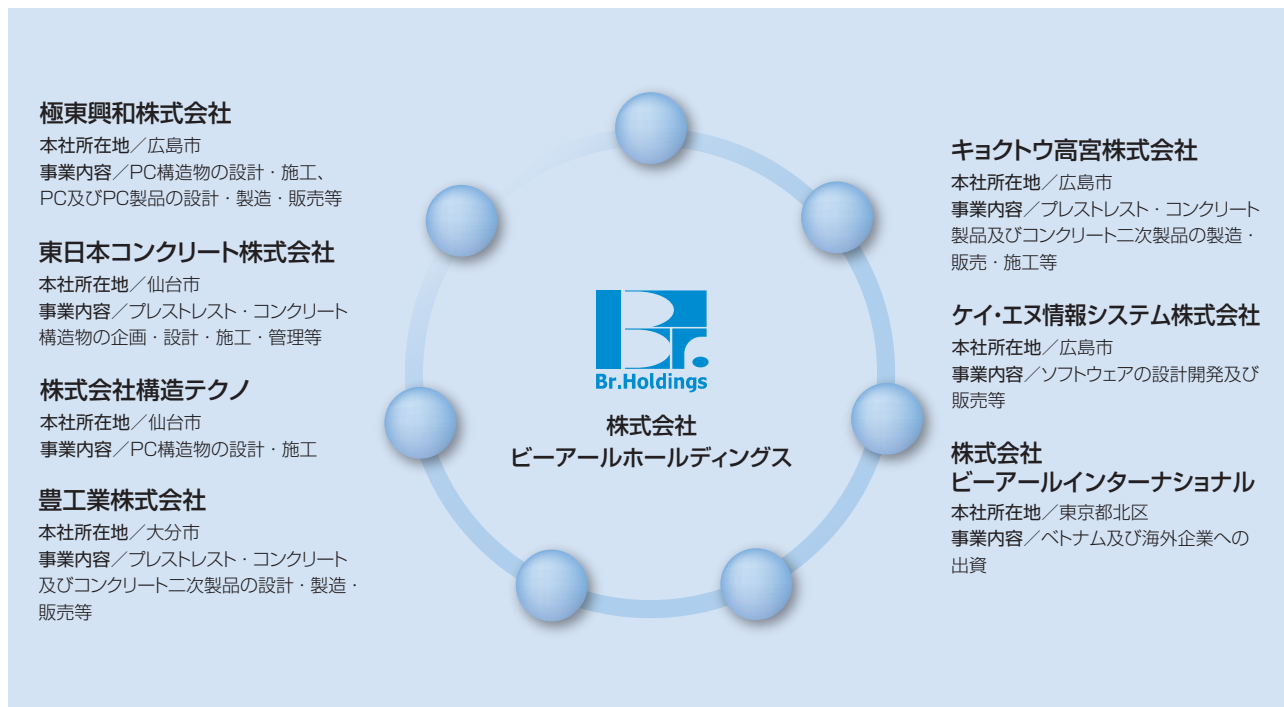
● 会社概要 (平成23年9月30日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	25億円
決算期	3月31日
従業員数	9名

● 代表者及び役員 (平成23年9月30日現在)

代表取締役社長	藤田 公康
取締役	長谷部 正和
取締役	土屋 英治
取締役	大田 光英
常勤監査役	天野 敏彦
監査役	青砥 悟
監査役	小田 清和

● グループの概況 (平成23年9月30日現在)



株式の状況

●株式の状況 (平成23年9月30日現在)

発行可能株式総数 30,000,000株

発行済株式の総数 8,620,000株

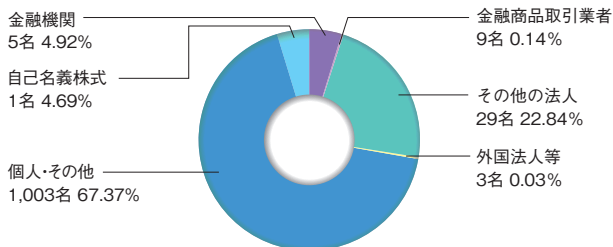
株主数 1,050名

大株主(上位10名)

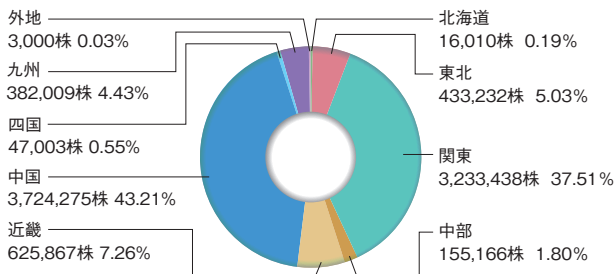
株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	1,300(千株)	15.82 (%)
藤田公康	744	9.06
ビーアールグループ社員持株会	452	5.51
ビーアールグループ役員持株会	302	3.68
極東工業広島支部取引先持株会	290	3.53
広成建設株式会社	247	3.01
極東工業大阪支部取引先持株会	227	2.76
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	2.43
藤田衛成	186	2.26
遠藤祐子	185	2.25

(注) 持株比率は自己株式(404千株)を控除して計算しております。

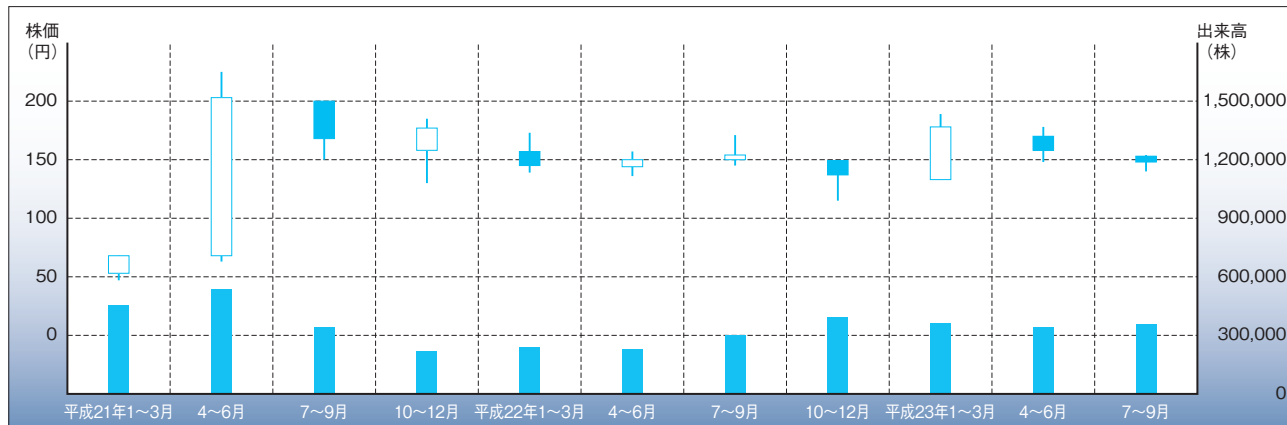
所有者別株式分布状況



地域別株式分布状況



●株価の推移



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

表紙写真について



完成写真



施工中写真

今戸高架橋は、紀伊半島内陸部の活性化を担う五條新宮道路の一部で奈良県十津川村に計画された十津川道路に位置しています。この道路は急峻な山間部を通過する箇所が多く、今戸高架橋も熊野川(十津川)と旧国道との間の狭い区域に構築しなければならない厳しい地形条件での施工となりました。本橋は、橋長380mのPC6径間連続箱桁橋で、平面線形や縦・横断勾配の変化の大きい、スレンダーな構造となっています。



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。